

<p><b>テーマ</b></p>	<p><b>特殊な状況に応じたACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）の作成</b></p>
<p><b>テーマ 設定理由</b></p>	<p>①前年度のテーマ      平成29年度九州ブロックリーダー研究大会は、「アクティブチャイルドプログラム（ACP）の作成」がテーマだった。</p> <p>②テーマの引き継ぎ事項      発展的に研究協議を行うために、前年度テーマに加え、「障がい児ができるACP。または健常者と一緒にできるACP」というテーマが引き継がれた。</p> <p>③より現実的なテーマ設定      「障がい」という分野は、専門的な知識が必須であるため、それだけをテーマにすることは困難であった。しかし、今後、多様な状況でもACPをすることを求められる可能性がある。より大きな視点から、「特殊な状況（多様な場面）」にも対応できるACPの作成をテーマに設定した。</p>

◆期日：平成30年12月15日（土）～16日（日）

◆場所：国立阿蘇青少年自然の家（熊本県）

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
ブロック研究大会ポスター報告会  
九州ブロック（作成者：熊本県体育協会 下舞）

◆参加対象

リーダー、育成担当指導者

◆参加者（内訳）

福岡県	：リーダー（3）名・育成担当者（1）名	
佐賀県	：リーダー（4）名・育成担当者（1）名	
長崎県	：リーダー（5）名・育成担当者（2）名	
大分県	：リーダー（5）名・育成担当者（1）名	
宮崎県	：リーダー（4）名・育成担当者（2）名	
鹿児島県	：リーダー（7）名・育成担当者（1）名	
沖縄県	：リーダー（3）名・育成担当者（1）名	
熊本県	：リーダー（9）名・育成担当者（3）名	計52名

◆経費

参加料：ひとり3,000円 旅費：参加者負担

◆運営スタッフの体制・運営方法

開催県のリーダー会・育成担当指導者が、計画・運営

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会  
 ブロック研究大会ポスター報告会  
 九州ブロック（作成者：熊本県体育協会 下舞）

◆日程

1日目：12月15日(土)	2日目：12月16日(日)
<p>●午後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画輸送</li> <li>・開会行事・リインテーション</li> <li>・研修①講義            内容：障がいの種類とスポーツ            講師：熊本障がい者スポーツ指導者協議会</li> <li>・研修②分科会            内容：特殊な状況に応じたACPの作成</li> </ul> <p>●夜間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修③分科会            内容：研修②と同じ</li> </ul>	<p>●午前</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修④全体発表・まとめ            内容：班別発表・評論</li> <li>・閉会行事</li> </ul> <p>●午後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画輸送</li> </ul>

## ◆プログラム概要

### 1. 研修①講義

内容：「障がいの種類とスポーツ」

講師：中尾 直道 氏【熊本障がいスポーツ指導者協議会】

## 講義概要

### 1 各障がいの種類及びその概要

(1) 身体障がい（肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい、内部障がい）

(2) 知的障がい（最重度、重度、中度、軽度）

発達障がい（コミュニケーション障がい、自閉症スペクトラム障がい、  
注意欠如・多動性障がい、局限性学習障がい、運動性障がい）

(3) 精神障がい（統合失調症、うつ病、双極性障がい）

### 2 障がい者のスポーツ不参加要因、障がい者の生活分類

### 3 各障がいに応じたスポーツ指導上の留意点

### 4 パラリンピック、国民スポーツ大会の種目の紹介

## ◆プログラム概要

### 2. 研修②分科会、研修③分科会

- (1) 各課題（特殊な状況）における制限や注意点の確認
- (2) 特殊な状況に応じたACPの作成

#### 班分け・担当課題

- 1班 活動場所が狭い。
- 2班 年齢幅がある。
- 3班 大人数が全員で活動する。
- 4班 少人数で活動する。
- 5班 団体内に聴覚障がい者がいる。
- 6班 団体内に視覚障がい者がいる。
- 7班 幼児しかいない。

## 2. 研修②分科会、研修③分科会

### (1) 各課題(特殊な状況)における制限や注意点の確認

#### 1班 活動場所が狭い。

状況：走り回るほどの広さは無い。教室など全員が座っている。

歩行困難な人がいる。etc

制限：走り回れない。移動が少ない遊び。

#### 2班 年齢幅がある。

状況：小学1年生～6年生の団体など。

制限：年齢差により体力差が生じる。

ルールが難しいと低学年が楽しめず、簡単だと高学年が楽しめない。

#### 3班 大人数が全員で活動する。

状況：50人や100人など。年齢層は同じくらい。

制限：ルール説明が行き届かない。工夫が必要。

グループ分けをする遊びか、全員が同じ動きをする遊びなどが良い。

## 4 班 少人数で活動する。

状況：10人以下や、大人1人対子ども1人。Etc

制限：遊びの種類が限定される。単調だと飽きがきやすい。

## 5 班 団体内に聴覚障がい者がいる。

状況：聴覚に頼らない活動。

制限：口頭での説明だけでは伝わらない。

音の合図や音を使った遊びができない。

## 6 班 団体内に視覚障がい者がいる。

状況：視覚に頼らない活動。

制限：自由に走り回る遊びだと衝突などの危険がある。

身振り手振りの説明ができない。難しいルール説明ができない。

## 7 班 幼児しかいない。

状況：言葉での説明が困難。運動強度レベルに特段の配慮が必要。

制限：ルールの理解度が低いため、口頭の説明ができない。

## 2. 研修②分科会、研修③分科会

### (2) 特殊な状況に応じたACPの作成

#### ★ACP作成の際の注意点

- 1 分科会の目的は、「特殊な状況（担当課題）に応じたACPの作成」とし、研修④全体会での発表が最終目的ではなく、今後の活動に役立つ内容を考えること。
- 2 まずは、特殊な状況（担当課題）の詳しい状況を整理する。
- 3 整理した特殊な状況に応じたACPを作成する。
  - ① 新たなACPを作成する。
  - ② 既存のACPを特殊な状況に対応するよう工夫する。
  - ③ 既存のACPを整理する。
- 4 複数のパターンを作成した方が良い（数が多いと選択肢が増えるため）。
- 5 参加者全員が平等に楽しめる内容を作成すること。
- 6 プログラムごとの意図をもって作成すること。
  - ① 幼児または児童の身体や神経系の発育発達の段階に応じた運動遊びであり、運動遊びを通じて発育発達を促すような内容となることも念頭に置くこと。
  - ② 参加者の交流やアイスブレイキングもACPの重要な内容の一つである。

★各班が作成したACP

1班 活動場所が狭い。

・ボール運び・爆弾ゲーム・ボール落とし・新聞じゃんけん・フルーツバスケット

2班 年齢幅がある。

・ドッチフリスビー・ねことねずみ・関所破り・セブンジャンプ・どんじゃんけん

3班 大人数が全員で活動する。

・九州うまかもん・だいこん抜き・おしくらまんじゅうオニ・知恵の輪

4班 少人数で活動する。

・コーンキャッチ・Sケン・ベースラン

5班 団体内に聴覚障がい者がいる。

・だいこん抜き・ムカデドッジボール・風船運びリレー・ボールリレー・宅配便

6班 団体内に視覚障がい者がいる。

・ブラインドドッジボール・言うこと一緒やること一緒

7班 幼児しかいない。

・転がしドッチ・しっぽ取りゲームChild Ver.・ひよこのたたかい

## ◆大会を開催した成果、反省、課題

### 成果

研修①講義では、障がいの種類を知ることができたが、障がいの分野は専門性が高く、取り扱うには非常に慎重になるべき内容であった。

障がいの種類によって、また、同じ障がいであっても個人によっては配慮する点が変わることが分かった。また、良かれと思ってしたことでも、障がい者にとっては迷惑となる場合があることもわかった。

研修②③分科会では、研修①講義を踏まえ、各担当課題ごとに研究協議を行い、それぞれの状況の整理と配慮する点を確認したうえで、既存のACPの整理や新たなACPの作成を行った。

### 反省

議題に対して内容をくみ取り、目的意識を持った研究協議（ディスカッション）をすることが難しい。また、研修④全体発表では、説明（プレゼンテーション）が難しかった。

### 課題

どのようなテーマで研究大会を行ったとしても、その日に初めて会った人たちと目的をもった活発なディスカッションをすることや、分かりやすいプレゼンテーションをすることは、リーダーとしても必須条件であり、今後の課題である。